

## 第2回あきる野市農業振興計画策定検討委員会 会議要録

### 【開催日時・場所】

日時：令和4年8月3日（水）午後1時30分から午後3時30分まで

場所：あきる野市役所 別館3階 第一会議室

### 【構成委員と出席者】

	氏 名	所 属	出欠
委 員	相原 宏次	東京都農業会議 事務局長	出席
	甲野 富和	あきる野市農業委員会 会長	出席
	高木 守	秋川農業協同組合 地域振興部長	出席
	横田 弘文	秋川ファーマーズセンター 直売所運営委員会 会長	欠席
	宮崎 恒雄	五日市ファーマーズセンター 直売所運営委員会 会長	出席
	田中 英雄	十里木・長岳農畜産物等直売組合 副組合長	出席
	嶋崎 三雄	あきる野市農業振興会 会長	欠席
	石川 光代	あきる野市農業振興会 幹事	出席
	山下 まこと	消費者の代表	欠席
	秋山 とし子	消費者の代表	出席
	飯田 淳二	東京都農業会議	出席
	久保田 聡	東京都西多摩農業改良普及センター 所長	出席
	鎌田 純徳	東京都農業振興事務所	出席
	大久保 学	あきる野市環境経済部 部長	出席
事務局	青木 邦彰	あきる野市環境経済部農林課 課長	出席
	藤島 和彦	あきる野市環境経済部農林課農政係 係長	出席
	金澤 知行	あきる野市環境経済部農林課農政係 主事	出席

## 【配布資料】

- 資料1 「会議次第」
- 資料2 「あきる野市農業振興計画アンケート調査結果（概要）」
- 資料3 「農家 アンケート調査回答」
- 資料4 「直売所利用者 アンケート調査回答」
- 資料5 「あきる野市農業振興計画素案」

## 【会議内容（議事要旨）】

1. 開会 （事務局）
2. 挨拶 （相原委員長）
3. 議事
  - (1) アンケート調査の結果について  
事務局より「アンケート調査結果」について説明（資料2・3・4）。
  - (2) 素案の検討について  
事務局より「あきる野市農業振興計画素案」について説明（資料5）。
  - (3) その他
    - ・今後の策定スケジュールについて  
事務局より「策定検討委員会スケジュール」について説明。  
事務局より「農業振興計画表紙」について説明。
4. 閉会

## 【会議内容（意見・質疑応答）】

会議においての主な「意見・質疑応答」は以下のとおり。

### （1）アンケート調査の結果について

- （委員）農家アンケートの調査対象について「一定規模の農家が対象」とは、どれぐらいの面積の所有者が対象なのか。また、農業収入がない方が7割と言うのはかなり対象範囲が狭いのではないか。  
（事務局）調査については、1,000㎡以上の農地を所有している方かつ、例年の農作物生産状況調査に回答いただいている方を対象としている。
- （委員）不耕作になってしまう理由について、借りたい意向のある者との間でクロス集計ができているとさらなるアンケートの有効活用につながるのではないか。相関関係がある集計があるとなおよい。

- （委員）不耕作地について、「山林化」、「耕せば使える」など、どのような不耕作の状態なのか。

（事務局）アンケートからは読みとれないが、例年、遊休農地については利用状況調査を行っており、「基盤整備を行う必要がある農地（山林化を含む）」「耕せば使える農地」どちらも数多く存在している。

- （委員）田んぼの遊休農地化について、上段が遊休農地化すれば、水が流れる先である下段の田んぼが耕作できなくなる可能性はあるか。

（事務局）あきる野市は各水田個別に用水路を整備しているため、上が不耕作でも、そのような心配は少ない。むしろ、専門の農機具が必要なこと、収益率が上がらないこと、後継者がいないことなどで遊休農地化している。

## （２）素案の検討について

- （委員）施策<sup>1</sup>直売所の拡充について、秋川ファーマーズセンターは「農と食の核」としているが、「食」については現在の直売所では満たしているとは言えない。そのため、今後の計画では「食」の部分についても、魅力的な直売所にしていきたい。また、改修の協議の際には女性の意見を取り入れるなど、主婦層にとっても使いやすい直売所にして欲しい。

- （委員）直売所の建替えはいつ行われるのか。

（委員）資金面で建替工事が滞っている。数年先になると考えられる。

- （委員）秋川ファーマーズセンターの「るの亭」の営業が終了してしまったが、販売されていた、ソフトクリームだけでも再開していただければ、「食」の分野の充実につながる。

（委員）再販に向けて動いている。

- （委員）学校給食として直売所から野菜を納品しているが、品質や規格の問題から、一部の野菜が受け入れられないことがあった。市と農家側で地場産野菜受入れの熱意に差があるように見受けられる。受入れ基準などの見直しを行い、拡充を図って欲しい。

（事務局）現在、武蔵引田駅北口の区画整理地区内で、新たな給食センターの建設が予定されている。引き続き給食センターとも連携し、幅広く地場産野菜の受入れについて、計画に盛り込めるよう調整していく。

（委員）議会でも地場産野菜の活用は取り上げられており、規格、品質管理等の問題があるが、地場産野菜を取り入れることは子供たちの食育、地域の活性化にもつながる重要な取組の一つであるため、新たな給食センターができる際に取り組みべきこととしていきたい。

(委員) 地場産野菜の活用率を定める地産地消の動きは各自治体にある。他市の事例も参考にしてはどうか。農家と給食センターの互いの要望をくみ上げる仕組みづくりが必要ではないか。

○ (委員) 新規就農者の方々は少品目しか作ることができない。少品目で大量に作ると販路に苦慮する新規就農者が多い。そのため、直売所の建替えをする際には周辺の施設への集配機能を持った施設として欲しい。

○ (委員) とうもろこしを購入したいが人気で買えないという方が多い。

(事務局) 遊休農地が解消され、担い手へ集積されていけば生産量の増加が見込める。そのため、担い手への農地の集積を図っていく必要があると考える。

(委員) 五日市ファーマーズセンターであれば、秋川の直売所よりも比較的購入がしやすい。

○ (委員) 施策について独立した物ではなく相互に関係があるものである。計画の最後に16施策が相互に関わりがるものであるという文言を入れることはどうか。

○ (委員) 3直売所の自由化により、各直売所でこの直売所は売れやすいなどの偏りが出ることはあるか。

(委員) 偏りは出ている。出荷場所は出荷者に任せており、需要が高いところに野菜が流れる。そのため、品質次第ではこれまでとは違う直売所だったとしても売れずに元の直売所に戻る可能性がある。販売力が弱い直売所については、販売力が上がる様な支援が必要である。

○ (委員) 施策16において農商工連携の項目があるが、「工」の部分で連携している取組みはあるか。

(事務局) 「工」について単独の取組みというわけではなくは「商工」と農の連携として書いている。また、近年は土建業者による農業参入の相談もあり、「工」の部分のみについても動きがある。

○ (委員) 獣による被害が年々増えており、平野部・山間部問わず被害が多い。計画の中で施策11・12の被害防止対策は重点施策に入れ込む必要があるのではないか。

○ (委員) 施策の2「農畜産物の安定供給」に肥料・飼料の高騰に伴う対策を入れてはどうか。

○ (委員) 施策10「環境にやさしい農業の推進」にひまわりの緑肥事業を入れてはどうか。

- （委員）施策[16]「農商工連携による地元産の利用拡大」に今年生産した「とうもろこし焼酎」を入れてはどうか。
  
- （委員）施策[2]「農畜産物の安定供給」について、あきる野産農畜産物の需要の調査・検討を行うことはどうか。市内でのPRはもちろん、市外でも都心でのマルシェに参加するなど対外的なPR活動をすることで、あきる野産の農畜産物の知名度向上につながる。  
（事務局）PR活動などでできることが無いか計画に盛り込んだうえ、検討していく。  
（委員）これまでも、新宿にあるJAアグリパークでもあきる野の農産物販売イベントを行っていた。売れ行きもよく、都内の需要は少なからずあると考える。
  
- （委員）今後のスケジュールについて教えていただきたい。  
（事務局）残り策定委員会が10月、2月にあり、最終的には3月末に計画が定まる予定。